

事故防止のポイント



設営等の作業時は・・・

- 設営は**平坦で安定した場所**を選びましょう。安定して設営でき、使用中の転倒予防につながります。
- 軍手や耐火手袋**を着用しましょう。
- 作業中でも、常に一人は子供の見守りを担当する等、**子供から目を離さない**ようにしましょう。

火気使用時は・・・

- 周囲に燃えやすいものを置かず**、風が強い日は火の使用を避けるか、**風よけを設置**しましょう。
- 燃えにくい素材の服**を選び、「着火剤」の取り扱いには十分気をつけましょう。
- 消火用の水などを近くに用意**し万が一に備えましょう。**火を使い終わったら、完全に消火**しましょう。

水遊びの時は・・・

- 安全な場所を選び、**適切なライフジャケットの着用**を心がけましょう。

病院？ 救急車の適時・適切な利用のお願い

迷ったら… **#7119**

ネットで緊急度を判断！
東京版 救急受診ガイド

東京消防庁救急相談センター **03-3212-2323**
こちらからもつながります

東京消防庁 東京都医師会 東京都保健医療局

消費生活相談

消費者ホットライン (局番なし) **188**

消費者ホットラインは、全国共通の電話番号で、地方公共団体が設置している身近な消費生活相談窓口をご案内しています。

東京都消費生活総合センター
消費生活相談 03-3235-1155

事故にあったとき、商品・サービスに原因があると思われる場合には、消費生活センター等の機関に申し出ましょう。

アンケート調査概要

アンケート調査の詳細はこちら
<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.lg.jp/anzen/hiyarihat/camp202504.html>

「東京暮らしWEB」
ヒヤリ・ハット調査



バックナンバー

「No.19公園で
使用するスポーツ用品」
「No.18誤飲等」

等の事故防止ガイド
もWEBでご覧いただけます。



東京都消費生活行政

X(旧Twitter) Facebook



@tocho_shouhi



@tocho.shouhi

ぜひフォローしてください。

キャンプ・バーベキューに 使用する製品等による 事故防止ガイド

ヒヤリ・ハットレポート No.20



東京都では、キャンプ・バーベキューに使用する製品等によるヒヤリ・ハット体験を掘り起こすために、インターネットアンケート調査を行いました。

この事故防止ガイドは、調査結果に基づき、ヒヤリ・ハット体験の事例や危害・危険を防止するためのポイントをまとめたものです。

キャンプやバーベキューでの様々な危険

けがやヒヤリ・ハット経験は1,202件

※都内及び近郊にお住まいで、キャンプまたはバーベキューの経験のある20歳以上の方3,000人に調査した結果(複数回答含む)

●火力を上げようと空気を吹き込んだら、炎が大きくなり火の粉で服に穴が開いた。(40代)

●ハンマーでペグを打ち付けていた際に、他のことに気を取られて、誤って指を強打しそうになった。(50代)

●娘がテント近くで遊んでいる時に足を引っ掛けて転びそうになった。(9歳)

●BBQ場の川辺で泳いでいる時に、急流に飲まれて溺れそうになった。(30代)

●設置した椅子の足場が安定していなかったので倒れそうになった。(30代)

●食事をしている時にテーブルが傾いて、怪我をした。(40代)

●炭を補充していたら、子供がまねして、手袋を付けずに火の近くに素手で炭を入れて、やけどしそうになった。(4歳)

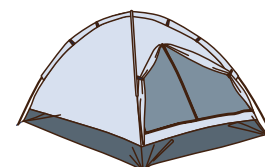
●ハンモックで寝ている時に揺らしていたら、落ちて手をつき骨折した。(30代)

●焚き火の点きが悪く着火剤をスプレーしたところ、ポツと顔の前で大きく火が燃え上って前髪が焦げた。顔はしばらくヒリヒリした。(40代)

●風が強くなってきて、火が手元にあたってしまう、軽いやけどをした。(9歳)

●花火をしているとき、孫が花火を振り回し、火花が散って危なかった。(4歳)

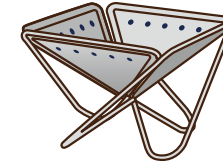
キャンプ・バーベキューでは、普段使用しない製品によるけがの事例が多くなっています。本番前にしっかりと取扱説明書を確認しましょう！



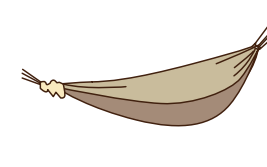
テント



タープ



焚き火台



ハンモック



着火剤

